

## 長野県のシダ植物雑記 (8)

大塚 孝一 (長野市宮沖199-1)

### Koichi Otsuka : Miscellaneous notes on Pteridophytes in Nagano Prefecture (8)

#### 43. ヌカイタチシダマガイ *Dryopteris simasakii* (H. Ito) Kurata

本種は葉の長さ40~60cmほどの常緑性、暖温帯性のシダである。ヌカイタチシダモドキとサイゴクベニシダの中間的な形質を持つが、胞子は正常である。葉身は2~3回羽状、葉面の光沢は少なく、羽片はほとんど無柄で、中軸にほぼ直角に出て鎌型に曲がる。どちらかというとヌカイタチモドキに似るが、葉柄下部の鱗片はより幅広く、基部近くに鋸歯がある。胞子のう群は小羽軸と辺縁の中間にある。包膜を有する。

長野県から最初にこのシダを見いだしたのは岡利雄で、大桑村で採集している。この標本は、千葉県立中央博物館の中池敏之博士に同定していただいた。なお、「長野県植物誌」(1997) 1503pの補遺で、“マガイ”と下記引用標本が脱落しているので、ここでヌカイタチシダをヌカイタチシダマガイと訂正しておきたい。

〔採集記録〕木曽郡大桑村長通沢 (岡利雄, 1995年, 千葉県立中央博物館, 写真23)

#### 44. アズミノナライシダ *Arachniodes azuminoensis* Fujiw., Y. Matsuda, Yu. Abe et Otsuka

本シダはホソバナライシダとシノブカグマとの新雑種で、1998年8月藤原陸夫、松田義徳、阿部裕紀子により堀金村から発見された。同年9月には藤原、大塚、松田行雄、尾関雅章の4名が近隣を調査した際、三郷村、穂高町からも発見された。

ホソバナライシダとシノブカグマは明確に

識別できる種であり、本雑種も明らかに両親の中間的な特徴を持ち、識別は容易である。ホソバナライシダからは、葉身は下部羽片がやや狭くなり卵状三角形、表面は濃い緑色、葉質が厚くやや光沢があり常緑的で、葉の表裏は無毛である。葉柄と中軸の鱗片は褐色が強く、より多くつく。包膜はより大きい。シノブカグマに比べ、葉身は4回羽状、下部羽片が広く、葉質が薄く、葉表面の色はやや淡い。葉柄と中軸の鱗片はより淡く、より少ない。胞子のうの成熟はさまざまであるが、胞子をつくらない。また、根茎はやや斜上し、匍匐するホソバナライシダと直立するシノブカグマの中間である。葉の長さは、約60~80cm。

ホソバナライシダやナンゴクナライシダ等のナライシダ類は葉質が薄く、葉表面に毛を持つこと等からカナワラビ属 *Arachniodes* から区別され、ナライシダ属 *Leptorumohra* として扱われることもあるが、雑種が形成されることからカナワラビ属として取り扱うのがよいと思われる (藤原他1998)。

#### (3種類の検索)

1. 葉は質が薄く光沢が無く、表面に毛がある。根茎は匍匐する……………ホソバナライシダ
1. 葉は質が厚く、光沢があり、表面には毛がない。根茎は直立または斜上する……………2
2. 葉身は3回羽状、葉質は厚く、葉柄の鱗片は黒褐色~褐色で濃い。根茎は直立する……………シノブカグマ
2. 葉身は4回羽状、葉質はやや厚く、鱗片

は褐色でやや濃い。根茎は斜上する  
.....アズミノナライシダ

〔採集記録〕南安曇郡堀金村三田650m (藤原陸夫, 1998-8-7 holotype 長野県自然植物保護研究所, isotype KANA), 同地 (大塚, 1998年 SHIN—写真24)

45. カタイノデ *Polystichum makinoi*  
(Tagawa) Tagawa

本種は暖温帯性の常緑性シダで、葉質が硬く、葉表面に光沢がある。葉は長さ40~60cm、葉柄下部には光沢のある黒色の鱗片を持つ特徴的なシダである。

本県では今までその分布の実態が明らかではなかったが、1997年藤原陸夫により採集され、1998年12月同氏との同行調査で確認できた。なお、同地近くでカタイノデモドキも見つかっている。また、すでに1968年には原嘉彦により飯田市天竜峡から採集され、「日本のシダ植物図鑑8」(1997)に引用されている。

〔採集記録〕下伊那郡天龍村葉野400m (藤原陸夫, 1997-6-12 自然保護研), 同地 (大塚孝一, 1998-12-18 SHIN—写真25)

46. カタイノデモドキ *Polystichum × izuense* Kurata

本シダはカタイノデとイノデモドキの雑種で、前者に比べ葉身がやや細長く、先は尾状になる。胞子のう群は小羽片の中間性につくが、葉の全面により豊富につく。光沢もやや弱い。葉柄の鱗片は色がやや淡く質もやわらかい。後者に比べ、葉柄に黒褐色の鱗片がで、胞子のう群は小羽軸よりにつく。

〔採集記録〕下伊那郡天龍村葉野 (藤原・大塚, 1998-12-18 SHIN)

47. キヨズミイノデ *Polystichum × kiyozumianum* Kurata

本シダはサイゴクイノデとイノデモドキの雑種で、前者に比べ葉面の緑色が濃く光沢があり、葉身の先はやや尾状となり、胞子のう群のつきはずっと良い。後者に比べ胞子のう群はより辺寄につき、裂片の耳近くにつく傾

向が強い。葉柄下部には黒色鱗片がでる。前記2シダと近い場所で採集された。

〔採集記録〕下伊那郡天龍村葉野 (松田行雄, 1998-12-18. SHIN)

48. ホソバフモトシケシダ *Deparia conilii*  
× *D. pseudoconilii*

本シダはホソバシケシダとフモトシケシダの雑種で、前者に比べ葉に多細胞毛が多く、葉柄は紫褐色を帯び、最下羽片はやや大きくなる。後者に比べ葉柄はやや細く、最下羽片が特に長いというより、羽片は下部にいくに従い徐々に長くなる。豊丘村から採集された。

〔採集記録〕下伊那郡豊丘村堀越 (大塚, 1998-11-22. SHIN)

49. ホタカワラビ *Dryopteris amurensis* ×  
*D. expansa*

本シダはオクヤマシダとシラネワラビとの雑種である。シラネワラビは県内に広く分布しているが、オクヤマシダはごく稀で、ほとんど見かけない種類である。オクヤマシダはシラネワラビによく似るが小形で、最下羽片が特に大きく、葉身は一見3出葉といった感じの五角形状である。葉柄の鱗片は淡褐色 (シラネワラビでは茶褐色) で、小羽軸には袋状鱗片を持つ。

花里弘 (1987) は佐久東部山地の主なシダについて報告しており、その中で川上村梓山のオクヤマシダについて記してある。ご教示いただいた現地で、群生しているオクヤマシダを確認することができた。その中に本雑種を見いだした。本シダはシラネワラビに似るが全体繊細で、葉柄下部鱗片は淡褐色である。また、オクヤマシダに比べ最下羽片はそれほど大きくならない。なお、「日本のシダ植物図鑑7」(1994)の分布図には長野県にプロットがある。

〔採集記録〕南佐久郡川上村毛木平 (大塚, 1998-7-26. SHIN 写真26)

50. オオバシナミズニラ *Isoetes sinensis*  
var. *coreana* (Y.H. Chung & H.K. Choi)

M.Takamiya, Mitsu.Watan. & K.Ono

Takamiya et al. (1997) は日本産ミズニラ属植物について検討し、ヒメミズニラ、ミズニラ、ミズニラモドキ、シナミズニラ、オオバシナミズニラ、ミチノクミズニラ（ミズニラとミズニラモドキの雑種）の4種1変種1雑種を認めた。オオバシナミズニラはシナミズニラの変種で、葉は長さの割に幅広く、葉の断面の形や、小胞子の大きさ、孔辺細胞長などにより区別される。この報告の中で、松本市の産があり、本県産ミズニラ属は3種類となる。現地未確認。

〔記録〕松本市新田池（船越真樹 s.n. SHIN 135541-A.P.G.48(2)）、同地（井上健, 1995 SHIN 179926）

#### 参考文献

- 藤原陸夫・松田義徳・安倍裕紀子・大塚孝一  
 (1998) 長野県産カナワラビ属の一新雑種,  
 植物地理・分類研究46 (2) : 155-159  
 花里弘 (1987) 佐久東部山地の主なシダ植物,  
 長野県植物研究会誌 No. 20: 124.  
 倉田悟・中池敏之 (1994・1997) 日本のシダ  
 植物図鑑7・8, 東京大学出版会  
 Takamiya, M., M. Watanabe & K. Ono (1997)  
 Biosystematic studies on the genus *Isoetes*  
 (Isoetaceae) in Japan IV. Morphology and  
 anatomy of sporophytes, phytogeography and  
 taxonomy, *Acta Phytotax.Geobot.* 48 (2): 89-  
 122

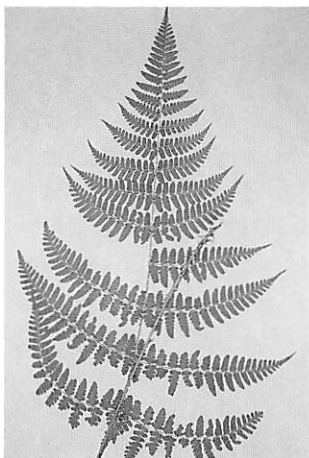


写真23 ヌカイタチシダマガイ



写真25 カタイノデ



写真24 アズミノナライシダ



写真26 ホタカワラビ